

今年も開催!

## リレー・フォー・ライフ(RFL)に参加しませんか?

佐賀市のどん3の森で9月23～24日開催

RFLとは、がん体験者やその家族などをたたえ、地域全体でがん征圧を目指す24時間継続して行うチャリティイベントです。1985年にアメリカで始まり、現在世界約30カ国、約6000カ所で行われています。日本でも今年は49カ所で開催される予定です。佐賀県では2015年から始まり、今回で3回目です。一人でも多くの方が会場に集まって、それぞれの悩みや苦しみを共有し、がん啓発活動に取り組みしましょう。

当日は、がん患者や家族、友人、支援者らが交代で会場を夜通し歩き続けるリレーウォークのほか、無料のがん個別相談やがんサロンなどを行います。リレーウォークへの参加は一人1000円の募金が必要となりますが、がん経験者や高校生以下は無料です。

がん患者はもちろん一般の方も参加できます。チームを組めない場合は個人の参加も可。仮装もOKです。ボランティアやメッセージが書かれた紙袋(レミナリエバッグ)の作成や募金だけの参加もできますので、できることから始めてみませんか。



昨年の様子

<日時>  
9月23日(土・祝)正午～24日(日)正午まで

<場所>  
どん3の森(佐賀市天神)

<問い合わせ>  
リレー・フォー・ライフ・ジャパン佐賀実行委員会  
☎・FAX 0952-37-7142 ホームページ rflj-saga.jp

## スタッフ紹介



主任診療放射線技師  
大音 龍太郎さん



副主任診療放射線技師  
金子 友子さん



副主任診療放射線技師  
岡本 圭さん

## ●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツへのご支援をよろしくお願いいたします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

## サガハイマツ通信 vol.18

(平成29年9月号)

【お問い合わせ】

発行 公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当)本村

所在地 〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町3049番地

TEL 0942(81)1897 FAX 0942(81)1905

HP <http://www.saga-himat.jp/>

# サガハイマツ通信

Vol.18

(平成29年9月号)

## 3番目の治療室が稼働いたします



- CONTENTS ●治療開始から4年 中川原章理事長にインタビュー
- データで見るサガハイマツ
- 【お知らせ】リレー・フォー・ライフに参加しませんか?
- 【スタッフ紹介】診療放射線技師のみなさん



サガハイマツは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

## サガハイマツの受診に関する相談窓口

電話 0942-50-8812

(受付時間:平日の9時～12時、13時～17時)

メール [saga-himat@saga-himat.jp](mailto:saga-himat@saga-himat.jp)

中川原章  
理事長  
インタビュー



【略歴】  
ながかわら・あきら／1947年生まれ。72年、九州大学医学部卒。千葉県がんセンター長を経て、2014年4月、地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館理事長に就任。15年6月から公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団理事長に就任。鳥栖市出身。

九州国際重粒子線がん治療センター(愛称:サガハイマツト)

# サガハイマツト 治療開始から4年で2200人の実績

サガハイマツトは8月で、治療開始から丸4年が経ちました。治療患者数は当初計画を上回り、順調に推移しています。また、サガハイマツト独自に開発した新しい照射技術を搭載した3番目の治療室も、間もなく稼働する予定です。サガハイマツトのこれまでの総括と、今後の重粒子線治療の展望について、サガハイマツトの中川原章理事長に聞きました。

たこととなります。今後は、他の部位への適用が広がることに期待しています。

▼長い準備期間を経て、間もなく3番目の治療室が稼働します。特長は。

3番目の治療室は、いよいよ治療が始まります。この治療室には「スキャンニング照射」という、新しい技術が導入されます。がんを塗りつぶすように重粒子線を照射する技術で、従来の照射法ではカバーできなかった大きながんや複雑な形状のがんへ照射できるようになります。がんの形状は人それぞれであり、その形状に沿った照射が容易になるため、正常な組織への副作用を最小限に抑えることができ、より体に優しい治療が実践できると期待しています。

ただし、がんの部位や状態によっては従来の照射法の方が適している場合もありますので、サガハイマツトでは患者さんに適した照射法を選択し、治療に取り組んでいきたいと思っています。

▼サガハイマツトで治療できる部位は徐々に拡大しています。新たに治療対象に加わる子宮がん、食道がんに対する重粒子線治療について教えてください。

前立腺の治療から始まり、この4年間で肝臓、肺・縦隔、すい臓、頭頸部、骨軟部、直腸(術後骨盤内再

発)、腎臓、と8種類のがんを治療しており、これらに子宮がんと食道がんが治療対象に加わりました。

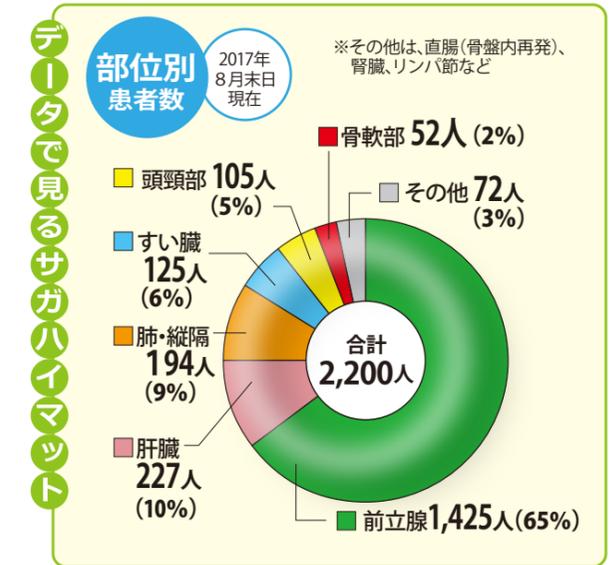
佐賀県は子宮がんの死亡率が高い現状にあります。子宮の周りには、重要な臓器が密集しているため、治療が難しいがんといえます。治療は基本的に手術や従来の放射線治療となりますが、腫瘍が大きかったり、分泌腺組織に発生する腺がんタイプの治療には、重粒子線治療が適している場合があります。照射回数は20回で、期間は5週間です。また、食道がんも治療対象に加わり、12回の照射で期間は3週間としています。

サガハイマツトでは、治療部位ごとに医療機関や専門科の枠を超えた検討班を作り、重粒子線治療の検討を進めています。子宮がんについても、昨年末からこの検討班を設け、症例や治療法などを検討することで、適切な治療方法の確立を目指しています。これは広域医療連携の好例だと思います。

また、「予約が取りにくい」「患者さんが多く治療ができない」というイメージがあるようですが、連絡をいただいでから平均1~2週間以内には初診を行っています。タイミングが良ければ翌日の初診も可能な場合があります。ただ、前立腺がんなどは、重粒子線治療に入る前に一定期間、ホルモン療法を受けていただく場合があります。そのため、ご不明な点やご相談があれば、まずはお電話でお尋ねいただければと考えています。

## 公的医療保険適用拡大目指し 国内5施設で協議会設立

▼今後の重粒子線治療はどのように展開していきますか。サガハイマツトの将来展望などを含



め、教えてください。

昨年末、国内5カ所の重粒子線治療施設の施設長らによる「全国重粒子線治療施設設立者協議会」が発足しました。今年7月、キックオフイベントとしてシンポジウムが開かれ、それぞれの施設の情報や課題が共有できました。また、これまでは各施設独自のプロトコル(治療実施計画)で治療が行われていましたが、今後は統一された治療のプロトコルが実施されていきます。重粒子線治療は昨年度切除非適応の骨軟部腫瘍が公的医療保険に適用されましたが、ほかの部位についても統一プロトコルに基づいて治療実績を重ねていくことで公的医療保険の適用拡大につながるものと思います。

私たちの最大の使命は患者さんを治すことです。そのためには新しいシステムや技術を生かし、罹患率が高いがんはもちろん、難治性がんの治療にも取り組んでいきます。また、重粒子線治療と他の治療法を組み合わせた治療法の可能性も追求していきたいと思っています。

## 最新技術備えた新治療室 間もなく治療開始へ

▼8月末で治療開始から丸4年が経過しました。現在の治療状況はいかがですか。

2013(平成25)年8月から今年8月までに、2200人を超える患者さんを治療してきました。当初計画を上回るペースで、順調に推移しています。サガハイマツトの職員が一丸となって患者さんの治療に専念してきた結果だといえます。

このほか、JR新鳥栖駅の目の前という地の利の良さに加え、鳥栖が交通の要衝地であることも大きいと思います。また、開設前から、九州内の大学病院や佐賀県医師会をはじめとする各地域の医師会など広域医療連携ができていたことも大きいですね。併せて経済界や佐賀県、鳥栖市、福岡県、久留米市など行政からの支援も大きな力になっています。

この4年で、重粒子線を取り巻く環境は大きく変わりました。特に、昨年4月の診療報酬改定で切除非適応の骨軟部腫瘍の重粒子線治療が公的医療保険に適用されたことはとても明るいニュースです。骨軟部腫瘍の症例自体はそれほど多くありませんが、治療法も少なく、治りにくいがんといわれていました。公的医療保険が適用されたことは、重粒子線治療の有用性が認められたことが証明され